

「今後の高等学校教育の基本的方向」の主な修正箇所とその概要

区分	項目	ページ	修正箇所の概要 《修正等に関連したご意見の内容等》	備考
全体			中学生、高校生、生徒の使い方の整理（生徒を基本とし、限定する必要がある場合のみ生徒以外の表現を使用） 《生徒と高校生が混在しているので統一するか使い分けが必要（庁内）》	
			各種調査等の出典の明示、対象（県立高校、公立高校、私立高校等）の明確化	
第1章	1	P1	「いわて県民計画」や「岩手の教育振興」との関係、他の学校教育に関する方向性等との位置づけなどの記述等を追加 《県の総合計画との関係はどうなっているのか》	
	1	P1	県立高校における教育の方向性であることを明示 《この考え方は私立高校にも適用されるのか》	
	2	P1～2	〔高校を取り巻く環境の変化〕を〔岩手の高校教育の特長〕とするとともに、〔生徒の状況等〕との整理を行い、その記述内容を追加及び修正 《悪いのは大人なので表現を変えて欲しい、否定的な表現である、分析が一面的である》	
	3(3)	P4	「第六に」の段落の「進学率の向上」を「進学できる」に表現を修正 《高等教育機関への進学は、「進学率の向上」ではなく、「希望者が進学できること」を目指すべき（庁内）》	
第2章	1(1)	P5	「また」の段落について、中学生の進路実現に向けた取組を整理のうえ記述を精査（P7の記述との整理） 《高校でもっと情報発信してほしい、中学生が高校を理解して選択できるようにしてほしい》	
	2(1)	P5	〔教育課程の改善と学校間連携等の推進〕の第一段落と第二段落の重複表現を整理	
	2(1)	P6	〔キャリア教育の推進〕の第二段落の表現を精査し、すべての高校で取り組むことを明示 《すべての高校においてキャリア教育を推進するという記述にすべき》	
	2(3)	P7	〔生徒の支援体制の充実〕の中学生とその保護者に対する情報提供の記述を削除（P5の記述との整理）	
第3章	2(2)	P11	学級定員を高校標準法に基づき設定することとし、表現を整理するとともに、国の動向に適切に対応するという記述を追加 《政権交代を見通した方針であるべき、政権交代で40人以下学級になるのではないか》	
	2(2)	P11	「また」の段落について、3学級以下の学校の評価や課題を加えるとともに、7学級以上の学校と併せて、地域の意見を伺いながら検討するという記述を追加、併せて小規模校という表現を削除 《3学級以下の学校の対処について表現を工夫してほしい、小規模校の良さや特色も明記すべきである、3学級以下はなぜ小規模校なのか》	
	3(3) イ	P15	〔農業に関する学科〕の第一段落の表現を精査（農業、食や食品産業等の関連産業に対する理解、担い手として活躍する人財の育成） 《担い手や従事者も含め、農業や関連産業の理解を深めるべき（庁内）》	
	3(3) イ	P15	〔水産に関する学科〕の第一段落の表現を精査（水産業、食や食品産業等の関連産業に対する理解、担い手として活躍する人財の育成） 《勤労観や職業観は水産教育に限ったものではなく、他産業と同様な記述とすべき（庁内）》	
資料編	資料8	p10	平成21年度の学校基本調査のデータ（最新データ）に修正	